

TAKATSUKI RED CROSS HOSPITAL

日赤の森

2011
September

No. 83

www.takatsuki.jrc.or.jp

神経内科を新たに
開設いたしました。



就任の挨拶

神経内科部長 氷室 公秀



2011年度より、新たに神経内科が立ち上げられ診療が本格的に始まりました。スタッフは私以外に前大阪市立総合医療センター神経内科医長・林紀子医師の専門医2人体制で開始することとなり、充実した陣容になっております。神経内科は脳、中脳、小脳、脳幹、脊髄、末梢神経、筋肉にいたるまで、全身の神経系統に関連した病気を診察・治療する診療科です。疾患としては脳血管障害、ギラン・バレー症候群、脳髄膜炎などの急性疾患、アルツハイマー病・パーキンソン病・

運動ニューロン病などの神経変性疾患から筋ジストロフィーにいたる神経難病や経過の長い病気を中心に、認知症の鑑別、頭痛、めまい、手足のしびれなどを受け持ちます。治療法が確立されていない病気もありますが、最近では医学の進歩とともに治療可能な病気も増えています。最新の知見に基づく治療を行い、病気の進行をとどめ、症状を緩和できるような、患者さんに優しい医療を目指してサポートできればと考えています。どうぞお気軽に御相談ください。

診療科 トピックス 神経内科

2011年度より、当院に新たに神経内科が出来、診療が本格的に始まりました。

神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・手足の筋に生じる疾患を診断し、内科的方法で治療を行う診療科です。神経内科と間違えられやすいのが精神科、神経科、心療内科などですが、これらの科は精神的な問題を扱う科です。神経内科はこれらの科と異なり、精神的な問題は取り扱いません。

当科の対象疾患は、次のようになっています。

- 神経変性疾患
(パーキンソン病、アルツハイマー病、ハンチントン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など)
- 免疫性神経疾患(多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、筋炎など)
- 感染性疾患(脳炎、髄膜炎など)
- 血管障害(脳梗塞、脳出血など)
- 頭痛
- その他(筋ジストロフィー、てんかん、ミトコンドリア脳筋症など)

対象となる諸症状は次のようなものです。

- 手足の動きが悪い、力が入らない、手足が痩せてきた。
- 手足・口などが意志とは関係なく動く、ふるえる。
- ふらつく、足が突っ張り歩きにくい、よくこける。
- 手足がしびれる、感覚が鈍い。
- 物が二重に見える、瞼が重い。
- 物忘れが強い、計算ができない、字が読めない・書けない。
- しゃべりにくい、飲込むときにむせる。
- 意識がなくなる、けいれんをおこすことがある。
- 頭痛がする。

当科で実施している検査内容は次のようなものです。

CT、MRI、MRA、筋電図、神経電動速度検査、脳波、脳血流シンチグラフィー、筋生検、末梢神経生検

当科の特色。

- すべての神経疾患を診療しています。
- 外来担当医はすべて神経内科専門医です
- 地域のニーズに対応する臨床神経内科を目指します。
- 個々の患者さんの病態分析を徹底的に行い最善の治療を心がけています。
- 地域の在宅・福祉医療機関と密接に連携し患者さん個々に対して社会的・全人的な診療を行っています。

認定資格 取得者の 紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 松井 洋子



皮膚トラブル、排泄トラブルを抱え苦しんでいらっしゃる方がとても多いと認識しております。ご自分の症状の改善をあきらめてしまっておられるかたもいらっしゃるのではないのでしょうか。ケアのみでは解決できない場合がありますが、原因によっては大きく改善すること、あるいは適切なケアで今以上に快適に過ごせるようになることもあります。あきらめずに専門の知識と技術をもった私たちと一緒に症状の改善に取り組みしましょう。

皆様に納得していただき快適に過ごしていただけるようなケア方針を提案し、そのケアを習熟していただくことでご本人はもとより介護担当の方やご家族の在宅での負担をより軽くできるように目指してまいります。当院では褥瘡に関する委員会においての活動や創傷・ストーマケア・排泄ケアに関する勉強会を職員が定期的に行い知識と技術の向上に努めております。どうぞよろしくお願いいたします。

がん性疼痛看護認定看護師 上田 貴子



高齢化社会にともない、がんと診断される患者さんも年々増加の一途をたどっています。がん患者さんの20～50%は診断時にすでに痛みを経験していると言われています。さらに進行がん患者さんになると、その割合は75%にも及びます。非常に多くのがん患者さんが痛みに苦しんでいるといえ、がん患者さんにとって痛みはとても深刻な問題の一つとなっています。痛みは身体的な苦痛をもたらすとともに、精神的・社会的にも大きな影響を及ぼし、がん患者さんの生活の質を低下させる要因となります。

また、患者さんを支える家族にも大きな影響を及ぼします。患者さんとご家族と一緒に痛みに対して考え、生活の質の向上を目指し個別的なケアを実践していきたいと思えます。

がん化学療法看護認定看護師 河井 亜希子



化学療法は、手術や放射線療法と同様、がんの治療として幅広く行われています。色々ながんに対し、新しいお薬が開発され、すべて合わせると、ここ3年間で10種類以上のお薬が新規承認されています。それにより、患者様の治療選択は広がりましたが、副作用はより多岐に渡るようになりました。それぞれのお薬の特徴を理解し、患者様・またご家族への説明を行い、共に対策を取りながら、出来る限り副作用は予防できるよう、関わらせていただけたらと思っています。

また、化学療法という視点だけでなく、治療を開始する時期、治療の変更時期、緩和への移行時期など、それぞれの患者様の時期に応じて、緩和ケアサポートチームとも協働し、がん治療を行う人を様々な角度からサポートさせていただけたらと思います。



がん化学療法看護認定看護師
成相 朋子



感染管理認定看護師
木野村 恵子



感染管理認定看護師
松下 めぐみ



緩和ケア認定看護師
藤原 和子



緩和ケア認定看護師
勇 祐子



救急看護認定看護師
矢田 雅美



糖尿病看護認定看護師
西島 桂子



日本禁煙学会専門看護師
谷口 まり子



皮膚・排泄ケア認定看護師
川上 伊津子



▲ 安眠セット



記録的な大雨により、日本各地で人的被害や住家被害が発生しました。9月8日(木)、日本赤十字社大阪府支部では、奈良県十津川村等の避難所へ避難されている住民の方々への救援物資として、当院災害救護倉庫に備蓄しているマットレスやアイマスクなどの入った「安眠セット」300セットを、日本赤十字社奈良県支部へ緊急輸送しました。

平成23年
台風12号に対する
救援活動

医療社会事業部社会課長
荻原直久

東日本大震災における 救護活動の現状

医療社会事業部長
多治見 佳代子

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、マグニチュード 9.0 の大地震・津波による甚大な被害が東北地方を襲い 6 ヶ月が過ぎました。震災で亡くなられた方々のご冥福を改めてお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。



▲巡回先にて患者様にお薬を渡す看護師



▲岩手県矢巾町の保健士の方と打ち合わせを行う救護班

3 月 11 日午後 3 時、日本赤十字社大阪府支部事業課より災害発生のお知らせと救護班の待機命令を受け宮城県庁前での救護活動への派遣準備を行い、直ちに災害対策本部事務局を立ち上げました。救護班・こころのケアの派遣要員は 3 月 15 日～7 月 13 日の間に、医師 (8 名)、看護師 (15 名)、主事 (13 名)、助産師 (1 名)、薬剤師 (1 名) の合計 38 名でした。被災地の宮城県 (宮城県庁前・石巻赤十字病院)、岩手県 (山田町・シーアリーナ) 等で dERU 内、避難所、巡回診療を地域の医療機関、保健所等と連携し災害救護活動を行いました。

また、災害救護活動と被災地の現状は「がんばろう・日本」をテーマに、病院の玄関フロアにパネル写真を展示しました。多くの患者さん、来院される皆様に見ていただく事ができました。このような救護活動に対し、多くの期待と信頼を頂きました。今後もこの期待に応え、救護活動が活かせるように取り組んでいきたいと考えます。



▲救護班撤収の際、岩手県立陸中海岸青少年の家の皆様から「ありがとう」のお言葉をいただきました。

一日看護師体験

看護副部長 吉田 篤美



「一日看護師体験」は平成 3 年より大阪府健康医療事業の一環として、高校生を対象に看護職員養成の確保・進路決定の参考とするためのものとして行われております。

今年度は、8 月 1・2・4 日の 3 日間実施いたしました。府立池田高等学校・府立槻の木高等学校・追手門高等学校・金光大阪高等学校各校より、合計 32 名の参加がありました。

初めての白衣での体験に緊張気味でしたが、看護師への決意を新たにされたようでした。

ここに参加された高校生の感想文の一部をご紹介します。



看護師になりたいと思っていて、一度は看護師という仕事がどんなものなのかを自分の目で見て体験したいなと思って参加させていただきました。

想像していたよりもナースステーションは明るかったりして、みんな生き生きとしていて楽しそうにお仕事されていて良いなと思いました。看護師さんから色々な話が聞けてとても良かったです。患者さんがどの程度までなら自分で出来るのかをしっかりと分かっていて、患者さんが出来ることは無駄に手を出したりしないという優しさもあるんだと学びました。あとは、血圧を測ったり、胸の音を聞かせてもらったりして、とても楽しかったです。看護師さんは良い人ばかりやなって思いました。

今日一日ですごく色々な事を学ばせてもらって充実した一日を過ごせました。改めて看護師になりたいと強く思い直しました。とても良い体験が出来ました。色々お世話になりました。ありがとうございました。

学校名：大阪府立槻の木高等学校 氏名：奥村 久瑠美
体験病棟：6 病棟

今日で看護師になりたい決意が固まりました。今日体験したのは、血圧を測ったのと、体と足を拭いたのと、車椅子を押したりしました。僕を 1 日見て下さった看護師さんは優しく、僕に出来る事は全部やらせて下さいました。楽しくて楽しくて時間があっという間に来てしまいました。自分は、今年実は肺がんと糖尿病でおじいちゃんを亡くしました。ものすごく仲が良かったので悲しかったです。その時に、世の中人のために何かをして死んで行きたいと思いました。今日の体験では、すごく自分の心に響きました。やっぱり看護師さんはすごいです。カッコいいです。将来、この病院で働きたいです。その時にもう一度お礼を言いに来ます。そして、被災地にすぐに飛んで行って人々を助けたいです。看護師になって自分の心も磨きたいです。今日体験させて頂いたきれいなお姉さん。本当にありがとうございました。今日とても楽しかったです。

学校名：金光大阪高等学校 氏名：辻 翔馬
体験病棟：3 病棟

医療安全だより シリーズ

お薬の
包装シート誤飲
について

お薬を服用される皆様へ



多くの薬は、アルミなどの薄い金属とプラスチックで1錠ずつ分けて包装されています。

(PTP包装とかPTPシートと呼ばれることもあります。)

○ 包装シートのまま薬と一緒に飲み込んだ事例が増えていきます！

誤って飲んでしまうと、硬いシートの角がのどや食道などをキズつけ大変危険です

○ うっかり誤飲を避けるために、1錠ずつ小さく切り離さないでください。包装シートを指先で強く推して裏面のアルミを破り取り出してください。



お薬は、包装シートから取り出して
お飲み下さい



○ 万一、誤飲した場合には、すぐに病院を受診して適切な処置を受けてください！

『第3回 高槻赤十字病院緩和ケア研修会』を開催しました。

地域医療
連携課
濱田 健司

去る平成23年5月21日（土）、22日（日）の2日間にわたり茨木市福祉文化会館で「第3回 高槻赤十字病院緩和ケア研修会」を開催しました。参加者36人のうち医師は20名（当院医師12名）、看護師、理学・作業療法士、薬剤師のコメディカルが16名でした。元々の研修会は、緩和ケアの基本的な知識習得を目標に、厚労省の「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠して行っているものですが、当院では対象をコメディカルにも広げて行っています。

参加されるコメディカルの方は熱心で、いつも研修会を盛り上げて頂いています。2日間で12時間にわたる研修会は、講義だけでなく、ワークショップやロールプレイなど参加型の研修会になっており、さらに、医師とコメディカルが一緒に作業することでチーム医療の実践にもなっています。

最後に、無事終了された参加者に田島院長より修了証書が手渡されました。参加された皆様、本当にご苦勞様でした。

『市民公開講座』が開催されました

地域医療
連携課
濱田 健司



去る、7月2日（土）、高槻現代劇場で『市民公開講座』を開催いたしました。

毎年、7月に市民の方々を対象に「がん診療」をテーマに公開講座を開催しています。

今回のテーマは、「継続する、がん治療」と題して、「大腸がんの治療」は外科の内田先生、「肺がんの治療」は呼吸器内科の北先生、「肝がんの治療」は消化器科の玉田先生、「放射線治療」は放射線科治療係長の日高技師と放射線室担当看護師の角田看護師、「緩和ケア」は緩和ケア科の圓山先生と医療福祉相談係長の志水ソーシャルワーカーに

よって講演されました。約100名の参加があり、写真やスライド、動画などで説明があり、二部の総合討論会では、参加された方から放射線治療についての質問があり、内容の深い質疑応答がありました。また、がんの高度先進医療について健康保険は使えるのかなど、費用はどれくらい必要かなどの質問もありました。

前回は、残念ながら雨でしたが、今回は、晴天に恵まれ大勢の方々にご参加いただきました。ありがとうございます。

来年も開催する予定ですので、皆様、是非ご参加いただきますようお願いいたします。



高槻市立阿武山中学校 職場体験学習

社会課長
荻原 直久



「私が知っていた看護師の仕事を手伝わせていただいたりしてすごく勉強になりました。体験をさせていただいて一番感じたことは看護師の仕事は思っていた以上に大変だということです。一日中看護師さんと一緒にいてとっても大変でした。でもいい経験ができて良かったです。」

「患者さんと接する」という事で患者さんの血圧をはからせて頂きました。普段は入れない所や様々な所にも行かせて頂きました。私の将来の夢は看護師です。間近で看護師という職を見ることができ、すごく嬉しかったです。」

以上は、平成23年6月30日～7月1日にかけて行われた高槻市立阿武山中学校職場体験学習に参加した中学2年生2名の御礼状の一部をそのまま載せています。校内では体験できない貴重な経験をしたことで現実社会の仕事の役割を理解し、今後彼らが進路を決める中で医療職という分野を選択肢として選んでくれたらと思います。出来れば赤十字病院の看護師になってくれたら嬉しいのですが。

7月28日 高槻キッズギター教室 サマーコンサート

社会課長
荻原 直久



ギターはピアノと同様、旋律楽器ではなく伴奏や副旋律もとおりもつ小さなオーケストラ（音楽）で、広く年齢や性別も問わず、全ての人をつないでくれる素晴らしい言葉を超えたコミュニケーションであり、患者さんとの出会い、共に過ごし、共に感じ過ごせる時間から、少しでも患者さんの心がやすらげるひとときであってほしいとの願いで、慰問に訪れられました。

「高槻キッズギター教室」のみなさんは、平成14年創設の関西で数少ない幼児教室としてスタートされ、現在はギター好きな小学生や中学生、そのお母様方が通っておられます。

演奏会では、日本ギター連盟のギターグレードを持つておられる中学生が奏でる、独創的幻想曲・ヴィニースや他の小・中学生が奏でるメヌエット・長調と二長調・ソルブレリード・ボンセ、チムチムチェリー、となりのトトロや童謡メロレー等の調べに、集められた患者さん達の心に、ひとときのやすらぎを与えられました。



京都大学医学部外来患者 支援ボランティア実習

社会課長 荻原 直久

医療系の専門職をめざした京都大学医学部の1回生が、外来フロア等で外来患者さんの受診の支援等を行うことにより、挨拶をはじめとするコミュニケーションの必要性を体験し、患者サイドの立場に配慮できることを目的として、今年も8月9月にかけて各週週1回、延べ6名の学生が外来患者支援実習に訪れました。

外来玄関では来院患者さん一人一人に挨拶をおこない、挨拶を返されることに新鮮さを覚えたり、車椅子の介助、タクシーやエレベータの乗り降りの補助等

を行い、様々な患者さんと接する事により、学生たちは患者さんの立場を尊重し、医療に臨むことの必要性を体感しました。



6月6日 すずらんのお見舞い

社会課長 荻原 直久

全日本空輸株式会社ANAグループから、各地の赤十字の医療施設に入院中の方々に対し、北海道のスズラン（押し花）を寄贈したいとの申し出が日赤本社にあり、今年も当院に、ANAグループ客室乗務員等4名の皆さんが訪問されました。押し花で作ったしおりを6病棟に入院されておられる患者さんたち、一人一人に手渡されました。押し花には永久に咲き続けてほしいという願いが込められてお



各種教室のご案内

平成23年度 赤十字健康教室のご案内

日常生活の中で、健康ほど大切なものはありません。現在は健康であっても、これからの生活で多彩な変化を示します。赤十字健康教室では、疾病の早期発見と予防を目的として市民のみならず健康な生活を送って戴く事を応援しておりますので、お気軽にご参加ください。

時 間 14時～15時30分

場 所 高槻赤十字病院 緩和ケア病棟内「やすらぎホール」

開 催 日	テ ー マ	講 師
4月26日(火)	消化器疾患の話1「肝臓がんについて」	消化器内科 部長 玉田 尚
5月24日(火)	消化器疾患の話2「胃がんの早期発見と早期治療について」	消化器内科 副部長 神田 直樹
6月28日(火)	最近の肺がん治療の進歩について	呼吸器外科 部長 菅 理晴
7月26日(火)	乳腺外科疾患の話「乳がんについて」	乳腺外科 部長 一ノ瀬 庸
8月	休 講	
9月27日(火)	婦人科疾患の話「子宮頸がんと子宮体がん」なりやすい年齢	産婦人科 副部長 熊谷 広治
10月25日(火)	循環器科疾患の話	循環器科 医師 小池 隆夫
11月22日(火)	糖尿病の話「血糖をコントロールするコツ」	糖尿病・内分泌・生活習慣病科 部長 金子 至寿佳
12月20日(火)	整形外科疾患の話「膝関節のけがと病気について」	整形外科 副部長 市場 厚志
1月24日(火)	呼吸器科疾患の話「気管支喘息の診断と最新の治療」	呼吸器内科 部長 北 英夫
2月28日(火)	眼科疾患の話	眼科 副部長 福本 雅格
3月	休 講	

主 催 高槻市赤十字奉仕団、高槻赤十字病院

受講料 無料

申込方法 高槻赤十字病院 (TEL 696-0571) 医療社会事業部 社会課までお申込み下さい。

平成23年度 赤十字在宅介護教室のご案内

年間テーマ「健やかな高齢期を過ごしましょう!」

赤十字在宅介護教室では、誰もが迎える高齢期を健やかに過ごすための必要な知識を得ること、高齢期の理解を深め、地域福祉について考える機会とすること、要介護高齢者の自立に向けた介護ができるよう、市民のみなさまに、その知識を身につけて頂くことを目的として開催します。

時間 14時～15時30分 **場所** 高槻赤十字病院 緩和ケア病棟内「やすらぎホール」

開催日	テーマ	講師
4月15日(金)	食事について、運動習慣を身につけましょう	栄養課 管理栄養士 リハビリテーション課 理学療法士
5月20日(金)	加齢に伴うからだと心の変化、高齢者の病気の特徴、脱水	高槻赤十字病院 赤十字健康生活支援講習指導員
6月17日(金)	レクレーション、リラクゼーション	日本赤十字社大阪府支部 赤十字健康生活支援講習指導員
7月15日(金)	外出、散歩にさそいましょう	日本赤十字社大阪府支部 赤十字健康生活支援講習指導員
8月19日(金)	災害が起こったときに 「あなたができる支援」	日本赤十字社大阪府支部 赤十字健康生活支援講習指導員
9月16日(金)	高齢者に起こりやすい事故の予防と手当て、急病への対応	医療社会事業部長
10月21日(金)	居室の環境、移動、着替え、からだの清潔について	高槻赤十字病院 赤十字健康生活支援講習指導員
11月18日(金)	排泄介助をするときの心づかい、排泄ケア用品の使い方について	皮膚・排泄ケア認定看護師
12月16日(金)	福祉サービスの利用の仕方	医療社会事業部 地域医療連携課 (MSW)
1月20日(金)	認知症の理解と高齢者への対応、高齢者虐待について	高槻赤十字病院 赤十字健康生活支援講習指導員
2月17日(金)	在宅での看取りの要件、介護者の健康管理、癒しのハンドケア	緩和ケア認定看護師
3月16日(金)	薬の管理と飲ませ方について	薬剤部 薬剤師

主催 高槻市赤十字奉仕団、高槻赤十字病院 **受講料** 無料

申込方法 高槻赤十字病院 (TEL 696-0571) 医療社会事業部 社会課までお申込み下さい。

平成23年度秋期 (10月～12月) 糖尿病教室のご案内

年間テーマ “四季 使える糖尿病教室”

当院では、糖尿病学会認定の専門医、糖尿病看護認定看護師、療養指導士、管理栄養士等が中心となり、市民の皆様が日常生活の中で正しい知識をもって健康管理が行えるよう、お手伝いさせて頂いております。毎月開催される当院の糖尿病教室を是非お役立て下さい。

時間 秋期10月～12月 10時30分～13時20分 **場所** 高槻赤十字病院 会議室・講義室

時間	10月11日(火)	11月8日(火)	12月13日(火)
10:30～11:00	糖尿病の最新情報 糖尿病内分泌生活習慣病科部長	糖尿病と運動「自宅で出来る運動」 理学療法士(岸田)	糖尿病について 糖尿病看護認定看護師
11:00～11:30	糖尿病の検査について 検査技師(糖尿病療養指導士 土井)	糖尿病とくすり 薬剤師(調子)	患者体験談 意見交換会
11:30～11:35	休憩		
11:35～12:00	食事療法 1 管理栄養士(廣田)	食事療法 2 管理栄養士(廣田)	食事療法 3 管理栄養士(廣田)
12:00～12:45	糖尿病食試食会		
12:45～13:00	休憩		
13:00～13:20	ミニ健康講座 糖尿病と救急医療 糖尿病内分泌生活習慣病科医師	ミニ健康講座 糖尿病と網膜症 眼科医師	ミニ健康講座 糖尿病と腎疾患 糖尿病内分泌生活習慣病科医師

主催 高槻赤十字病院 **受講料** 食事代実費800円を徴収させていただきます。つり銭のないようにご準備ください。

申込方法 高槻赤十字病院 (TEL 696-0571) 医療社会事業部 社会課までお申込み下さい。



日本赤十字社 高槻赤十字病院

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野 1-1-1
TEL 072-696-0571 (代表)
URL <http://www.takatsuki.jrc.or.jp>
mail trc@takatsuki.jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 宮前 茂

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。

モバイルサイト

携帯電話でQRコードを読み取ってアクセスしてください

病院情報は
こちらから!

